

# 鴨川市水道ビジョン・経営戦略（概要版）

## 1 鴨川市水道ビジョン策定の趣旨と位置づけ

本市の人口は、他都市と同様に減少傾向にあり、これに伴う水道料金収入の減少により経営環境は厳しさを増しており、更なる経営健全化の取組が求められています。一方で、水道施設の老朽化も進んでおり、中長期の視点に立った効率的な施設の更新が求められています。そこで、水道の理想像を明示するとともに、その理想像を具現化するため、平成30年度から平成39年度までの10年間に取り組むべき事項及び方策を示しました。

計画策定にあたっては、「第2次鴨川市総合計画」と整合を図ると共に、厚生労働省が策定した新水道ビジョンによる、「安全」、「強靱」及び「持続」の各分類における本市の課題について、体系的に整理し具体的な施策を示しました。



図-1 鴨川市水道ビジョンの位置付け

## 2 人口及び水需要の見直し

本市の給水人口は、年々減少しており今後も大幅な増加は見込めず、平成39年度ではおよそ30,000人となる見込みです。また、それに併せて一日最大給水量も減少し、平成39年度ではおよそ18,000m<sup>3</sup>/日となる見込みです。

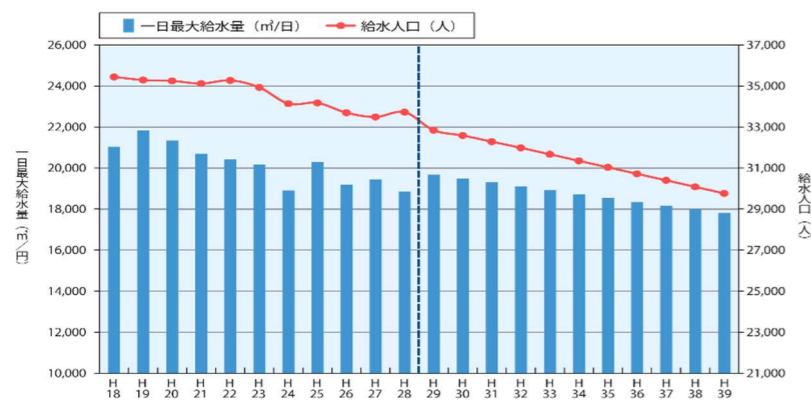


図-2 給水人口及び給水量の推移

## 3 水道事業の概要

本市の水道事業は、平成17年2月に旧鴨川市と旧天津小湊町が合併し、計画給水人口40,550人、計画一日最大給水量27,840m<sup>3</sup>/日をもって上水道として創設認可を得ました。

その後、平成19年4月に鴨川市清澄簡水道事業を統合し、計画給水人口41,050人、計画一日最大給水量27,915m<sup>3</sup>/日で事業を進めています。近年では、昭和30年代後半から布設された石綿セメント管の布設替えを中心に、経年劣化による老朽化が進行している管路の布設替えに取り組んでおります。

### (1) 水源及び浄水場

本市の水道事業の水源は、市内4箇所の表流水・ダム水と、1箇所の湧水及び2箇所の南房総広域水道用水供給事業からの浄水受水となっています。その内、横溝浄水場、保台浄水場及び奥谷浄水場はダム表流水の影響により臭気物質が発生していることから、凝集・沈殿・ろ過に加えて粉末活性炭を注入しています。

### (2) 配水池

本市の給水区域は、標高0m～300m程度と高低差が激しいことから、配水池、受水槽及び減圧槽の59施設（内、1施設休止中）で配水圧の調整を行っています。

### (3) 管路施設

平成28年度末の本市の管路総延長は、約381.5km（導水管約6.7km、送水管約6.8km、配水管約368km）で、その内耐震管路は約34km、9%を占めています。また、石綿セメント管が約27km存在します。

## 4 水道事業の課題

### ■ 安全

#### (1) 水質管理の強化

- ・待崎川の取水口は、河川の下流域にあるため、比較的汚濁の危険性が高いことが懸念されます。
- ・浄水水質においてはトリハロメタンが検出されており、水処理の適正管理が重要となっています。

### ■ 強靱

#### (1) 施設の耐震化

- ・施設の耐震化等危機管理対策の強化が望まれます。
- ・区域内の管路バイパス化・ループ化等による効率的な給水管システムの構築が望まれます。

#### (2) 危機管理

- ・水安全計画やBCP（事業継続計画）等の各種マニュアルに関しては、まだ十分とは言えない状況にあります。

### ■ 持続

#### (1) 経営の健全化と効率化

- 1) 広域化
  - ・県内でも都市部と比べて投資的経費に係るコストがさらに高くなっています。
  - ・財政面、人材を含む技術面や管理体制等の組織面、それぞれの基盤強化に有効な水道広域化についての検討が必要となっています。
- 2) 給水原価及び供給単価
  - ・給水原価は、平成19年度の262.97円/m<sup>3</sup>から平成28年度の268.94円/m<sup>3</sup>に、供給単価は、平成19年度の267.74円/m<sup>3</sup>から平成28年度の269.31円/m<sup>3</sup>に増加しています。
  - ・有収水量1m<sup>3</sup>/日当たりの利益は、平成19年度の4.77円/m<sup>3</sup>から平成28年度の0.37円/m<sup>3</sup>に悪化しています。

#### (2) 環境に配慮した事業運営

- 1) 電気料の削減
  - ・減圧区域にて漏水量が増加傾向にあることから、配水量分析、水圧・漏水量の把握等の基礎的な調査に基づき、漏水防止計画を策定して検討していく必要があります。
- 2) 浄水場・加圧ポンプ所等の休廃止等による削減
  - ・運転効率の悪い施設があることから、該当施設の休廃止や、自然流下系統の拡張により効率的な運用を検討していく必要があります。

#### (3) 人材・組織づくり

- ・職員数は、本市水道事業創設の平成17年度以降年々減少し、平成29年4月1日現在では17名となっています。

#### (4) お客様サービスの向上

- ・更なるサービスの向上が望まれます。



＜鴨川市イメージキャラクター＞  
ななちゃん たいよう君 まっつー

## 5 鴨川市水道事業の目指すべき姿

「持続」、「安全」及び「強靱」の観点に留意しつつ、50年、100年先を見据えた地域の水道の基本理念及び理想像を図-3に示します。



図-3 施策体系

## 6 財政見直し

現状のまま推移した場合、平成39年には収益的収支にマイナスが生じることから、これを補うため料金改定をする場合を想定しました。その際、急激な値上げは避け、平成38年度におよそ5%の値上げが必要と想定されます。

## 7 フォローアップ

本水道ビジョンで策定された計画は、事業の進捗状況や水道事業を取り巻く環境の変化に応じてフォローアップを行い、適宜見直しを図ります。

進捗状況の把握には、水道ビジョンの現況評価で使用した業務指標（PI）などを活用します。また、図-4に示すPDCAサイクル（Plan：計画・目標設定、Do：事業実施、Check：事業評価、Action：改善）により、取組みに対する進捗確認を毎年度行い、計画と結果との乖離が著しい場合には、その原因調査と対策を図ります。

更に、概ね3～5年毎に投資・財政計画を評価し、アセットマネジメントの考えを取り入れて本ビジョンの充実を図ることにより、すべての水道利用者にとって低廉で、持続可能な水道事業が実現できるよう、経営努力を続けていきます。

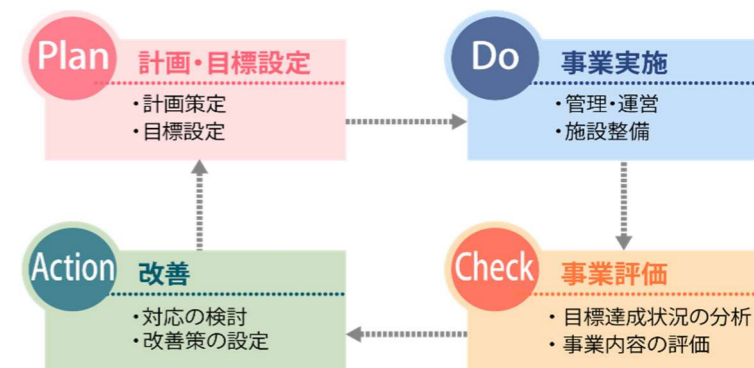


図-4 推進方策